

# 「豆の木登って空の国へ行こう」

芹澤 篤人（せりざわ あつと） 6歳

第一仏光こども園

（兵庫教区）

## ●表紙のこたば●

絵の具で描いた大きな豆の木に、たくさんのこどもたちが登っています。数えてみると36人も描かれています。もともとはジャックと豆の木の物語ですが、自分自身がお話の中に入って自分なりの物語の世界を描き出しています。いちばん大きなのが自分なのでしよう。落ちないように空の国まで登るために蔓をつかむ手の指がしっかりと描かれています。

絵の具で描かれた大きな豆の木やコンテの木々は、この物語の中に自ら入って想像の世界の中で楽しく遊ぶための舞台装置のようなものです。メインはサインペンの人物たちです。これだけの数を描くためには随分と根気が要りません。しかし、篤人君にとっては、これらの一人一人が大切なお友だちであり、この物語には欠かせない存在なのです。表情や動きにも気を配っている様子がうかがえます。描画活動を通して豊かに想像を広げながら、丁寧な粘り強くやり遂げる力も育っていることがわかります。



おお はし いさお  
**大橋 功**

岡山大学大学院  
教育学研究科